

活動テーマ

地域の人々とつくる『渋川ESDミュージアム』

実践事例について

全学年が、地域のくらしや自然をテーマに環境学習に取り組んでいる。草津市が推進する地域協働合校事業を活かし、地域の様々な世代の人々に教わりながら学習を進めている。その学習成果をまとめて、校舎内に「渋川ESD(いいまち 渋川 だいすき)ミュージアム」を開館し、他学年の展示を見合ったり地域の人々に発信したりしている。

1 本校の環境教育について

(1) 地域協働で進める環境教育

本校の環境教育の研究主題は、「渋川を愛し、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる子どもの育成」である。環境教育で、子どもたちは地域の身近な自然やくらし、文化について学んでいる。この学びを通して、人と人とのつながりを創出し、ふるさとへの愛着や誇りを深めることをねらいとしてきた。本校の環境教育のプログラムは、本校教員だけではなく、保護者、地域、行政、研究機関、企業が参加した環境教育の支援委員会を組織し、検討を重ねながら作成・実践してきたものである。

(2) 重視するポイント

本校の環境教育のポイントは、持続可能な発展のための教育、ESDの視点に立った環境教育のプログラム開発を進めていることである。ESDの視点に立った環境教育を進める上で、3つの「つながり」を大切にしている。

(3) 3つの「つながり」について

ア 教材の「つながり」

教材間の「つながり」を意識して取り組めるように、ESDカレンダーを作成し実践している。ESDカレンダーとは、1年間の教育活動の中で、各教科・総合的な学習の時間・特別活動等がどのように結びついているのか、カレンダーに項目を示し、その関連を分かりやすく結んだものである。

イ 人の「つながり」

学びの中で子ども同士の「つながり」を大切にしている。体験後に、いかに子ども同士を交流させ、個々の気づきをみんなのものにするかという課題のもと、授業の在り方やスキルについて研究をしている。また、積極的に人材を活用し、学習の中で世代を越えた地域内外の人との「つながり」も積極的に取り入れている。

ウ 能力・態度の「つながり」

体験を通して地域のくらしや自然について調べるだけではなく、調べて気づいたことやわかったことをまとめたり、それをもとに身近な環境について考えたりして、行動に移したりする態度の育成を目指している。

2 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

ふるさとの人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。

5年生は、びわ湖フローティングスクールを核に、多方面で活躍されている方々を講師に招き「びわ湖環境学習」を実施し、森・川・田・湖のつながりについて考えた。琵琶湖の学習では、刺し網漁やえり漁の漁師を招いたり、テレビ会議システムを使って出会ったりしながら、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚を使った郷土料理(アメノイオご飯や湖魚の佃煮)を作ってもらい、それを試食して味わった。

さらに学習の成果を地域の人々に発信する

ために、「渋川E（いいまち）S（しぶかわ）D（だいすき）ミュージアム」の中で「郷土料理博物館」を開館した。

【世界農業遺産学習】

6年生は、滋賀県が登録を目指す「世界農業遺産」についての学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を考えることを通して、郷土への愛着や誇りを深めることをねらっている。郷土の農産物の中から「米」「野菜」「茶」をテーマに選び、生産者と出会ったり、農産物を味わったりといった体験を数多く取り入れた。学習のまとめでは、滋賀の農産物やそれらを使った郷土料理の魅力を紹介する「滋賀の郷土料理博物館」を開館させた。また、日本農業遺産にも認定された魚のゆりかご水田米の米ぬかや、地元草津市の花でもあるアオバナの粉末を使った石けんを作って、農産物の魅力をPRする活動を行った。三重県への修学旅行では、三重の漁業・林業に学ぶとともに、滋賀の農業の魅力を発表して伝えた。



【作った石けんを市長に報告する様子】

3 実施に当たっての工夫

ゲスト講師に学校へ来ていただけない場合でも、現場からテレビ会議システムを使った遠隔授業を行ってきた。校外学習などで子どもたちが学校から出かけていく機会は限られるため、現地の様子がライブで伝えられる遠隔授業を活用してきた。5年生・6年生の共同授業では、琵琶湖船上から漁業の様子を伝えた。6年生では、「茶」の学習で、近江茶の産地である、土山・朝宮・政所・北山の4つの地域の茶畑と、その近くの小学校とテレビ会議システムを使って交流した。茶畑の様子を見ながら、お

互いの学校へ質問したりメッセージを送ったりする交流を通して、近江茶の学習を深めた。また、地元の素材を使った石けん作りの学習では、製造過程に必要な油を、地元のひまわりを使って種から油を搾取した。より効率よく搾取する方法を学ぶため、愛東の菜の花館とつないで、搾取の方法を教わったり機会を見せてもらったりして、学習を進めた。



【魚船からの遠隔の様子】

4 成果

本報告では、2事例であるがどの学年でも地域の方に協力を得て子ども達の豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者や地域の方々にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

5 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

同じ活動でも、子どもの実態に合わせて工夫の余地がある。「毎年取り組んでいるから…」という活動にならないように、めあてをしっかりと意識して取り組みたい。

学校名	草津市立渋川小学校
住所	草津市西渋川二丁目8-55
電話番号	077-566-6116
E-mail	info@shibukawa-p.sk.ed.jp